



鏡石町長 木賊 政雄

「ほんとうの幸せが実感できるまちづくり」

町民の皆様 新年あけましておめでとうございます。
平成22年の輝かし新年をご家族お揃いで迎えられたこと心からお祝いを申し上げます。
昨年は、世界同時不況、円高、さらには、新型インフルエンザの流行、「政権選択」を焦点として8月に行われた総選挙では、戦後初の本格的政権交代が行われ、新政権は、脱官僚依存、地域主権などを柱として、国政の変革に挑戦することを強調していることから、多くの国民から期待を集めたところであります。

また、4月には、長年の悲願であった東北自動車道「鏡石スマートインターチェンジ」が本格運用され、その後順調に推移しており、利用車種の拡大と24時間利用に向けて取り組んでおり、引き続き町民のみなさんご協力をお願いします。

内閣府は、我が国経済について、「景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある」と基調判断を示し、「緩やかなデフレ状況にある」とデフレ宣言を出したところです。

国において、明日の安心と成長のための緊急経済対策として、第二次補正予算案が閣議決定されましたので、一日も早い日本の元気回復と国民生活の安心を強く望むものであります。

こうしたなか、町では第4次総合計画の基本テーマである「共に生き 共につくる 牧場の朝のまち鏡石」の具現化に向け、5つの柱を基軸に持続可能なまちづくりに取り組んで参る所存であります。

特に、産業振興として南町地区工場用地造成事業に着手するほか、地球温暖化対策事業として勤労青少年ホームの太陽光発電システム設置工事や、子育て支援として児童生徒の医療費助成事業の対象者を中学3年生までに拡大、小中学生を対象に農業体験などを取り入れた食育体験事業に取り組んで参ります。

また、継続事業についても、「国道4号4車線整備促進事業」「成田地区県営ほ場整備事業」「上水道第5次拡張事業」「健康増進事業」「生涯学習事業」などを着実に推進して参ります。

今年も厳しい財政状況にありますが、計画的な財政運営を基調に、町の特性を生かしながら、「ほんとうの幸せ」が実感できる温かみのある行政運営をして参る所存でありますので、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げ新年のごあいさついたします。

新年明けましておめでとうございます。

平成22年正月、皆様にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素は議会活動に多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年は、百年に一度と言われる世界経済状況により、景気の低迷と雇用対策や、デフレ現象等の厳しい諸問題があり、本町にも多くの影響を及ぼしております。

町議会としても、景気対策を含めた事業実施に向け、定例議会の他に、4回の臨時議会を開催して早急な対応を進めてきました。

また、国政では、政権交代があり、新政権のマニフェストによる新しい政策や事業見直しと、約92兆円の過去最大の予算編成方針が示されている中で、地方分権と地方税増額の税源を期待するものであります。

今年の町は、駅東区画整理事業、今出ダム中止による上水道整備や、着手した国道4号4車線化等、ハード事業と共に、産業振興、少子高齢化対応と家庭、学校、社会教育の拡充、福祉と環境対策等の総合的施策の推進を図り、住んで良かったと言える街づくりが急務であると考えております。

議会は、町の事業案件の決定機関であると共に、皆様のご意見を町政に反映させる重要な責務があり、今までも多くの議会改革を推進している中、昨年12月より本会議日程の変更や、一般質問の「問」答方式の導入を実施したところであります。

また、今後も、議会傍聴や議会だより等、開かれた議会運営を目指し、議員一丸となって努力する所存であります。

今、国政が大きく変わり、町行政にも変革を求められている中で「町民本位の鏡石」であり、目的達成のため、皆様の一層のご支援とご指導をお願い申し上げます。

結びに、町民皆様方のご多幸とご健康を心よりご祈念申し上げまして、新年のご挨拶いたします。



鏡石町議会議長

今泉 文克

「町民本位の鏡石」に向けて